

ダンボールコンポストのすすめ

生ごみ減量の、一番は食べること、二番は水切りの徹底、出た生ごみは、肥料として活用しましょう。

●ダンボールコンポストの基本事項

- ① 生ごみが堆肥になるしくみは、
 - ・生ごみの水分をダンボールが吸収し、ダンボール表面から蒸発発散させ生ごみの重量が軽くなる。
 - ・微生物の働きにより生ごみが分解される。
 - ・臭いは、もみがらくん炭が吸収するので臭いが無い。
- ② ダンボール箱は二重の構造のものを使用する。
- ③ 下には必ず通気性の良い編み目の台を置く。
- ④ 上に掛ける布を用意すると良い。
- ⑤ ピートくんは最初に良く混ぜ合わせる。
- ⑥ 生ごみを入れる度、必ず混ぜる。
- ⑦ 生ごみを入れなくても一日1回は必ず混ぜる。
- ⑧ 混ぜる時にはダンボール箱を壊さないよう注意する。
- ⑨ ダンボール箱が壊れると、新しい箱に取り替える。
- ⑩ 2ヶ月後位が一番微生物の活動が活発で順調です。
- ⑪ 使用期間→3ヶ月間は十分使用出来ます。
- ⑫ 全体で投入出来る生ごみは50kgが限度です。
- ⑬ 堆肥として使用するには熟成期間（2週間～1月）が必要です。
- ⑭ 出来上がった堆肥をプランターで使用する時は、3～4倍の土と混ぜて使用する。

虫が
気
に
な
る
時
は

●夏場の虫対策

- ① 虫が発生しやすくなるのでダンボールの上にはバスタオル等の布を掛け、虫が直接卵を産み付けるのを防ぐ。
- ② 虫が発生した場合には、ゴミ袋等のビニール袋に移し替え空気を抜き（掃除機で中の空気を吸引する）輪ゴムやひも等で密閉し、直射日光にあて表で1日、裏返して1日置くと、高温の酸素欠乏状態になるので虫は死滅する。
- ③ 発生する虫は、害にはならない。（ミミズと同じ役割）
- ④ 幼虫から成虫になるとほとんどが死滅する。
- ⑤ 虫は、さなぎになると死滅しないので、幼虫の時に駆除を行う。

●冬場の対策

- ① ダンボール箱内の温度が10℃よりさがると生ごみの分解が進みません。日なたに移動するか米ぬか・廃食用油などを加え分解を促進させてください。（タンパク質、脂肪類、魚のあら、天ぷらの残り等を入れると良い）（箱中の温度が20℃以上になるよう工夫しましょう。）
- ② 外気温が低く蒸発発散が盛んでないので、夜間はビニールシート等をかぶせ保温をする。